



埼玉県のマスコット コハトン

# Lib. Letter

2015 April [2～5月]季刊

平成27年2月28日 通巻 第39号

編集・発行 埼玉県立熊谷図書館

<https://www.lib.pref.saitama.jp/> Tel 048-523-6291

## 古今東西夢模様

### ～夢の世界をめぐる～

開催期間 : 平成27年2月28日(土)～平成27年5月21日(木)  
場 所 : 埼玉県立熊谷図書館2階ロビー

夢は自分で見ているにもかかわらず、自分でも理解が難しい不思議な現象です。今回の資料展では、夢をめぐる世界各地の神話や宗教、文学・音楽・美術など芸術作品に登場する夢、また夢による心理分析など各方面から夢に関する営みを紹介します。

長い歴史の中で、人間は夢という不思議な現象をどのように理解し、夢と向き合ってきたのでしょうか。そこからどのような文化が生まれたのでしょうか。古代の人々も現代に生きる私たちも、夢を見る時は、誰もが平等に夢の世界への訪問者であり冒険者なのです。

古今東西の夢にまつわる世界を楽しんでみませんか。

#### 1 古代人と夢

##### (1) 原始社会の神話と夢

現代に生きる私たちにとって夢とはリアリティーのないもので、現実社会で大きな影響力を持つことはあまりありません。しかし、多くの地域の原始社会において、夢は社会制度に取り込まれており、非常に実存的な意味を持っていました。そもそも人類が“魂”というものの観念を確信したのは、睡眠中に意識が肉体から抜け出て自由に活動するという体験を通してでした。また夢の中で岩や動植物とも会話ができることに気付いた彼らは、実は樹や石にも意思があり靈魂が宿っているとするアニミズム信仰を持つに至ったのでした。

北米インディアンやオーストラリアのアボリジニをはじめとする原始社会の部族には必ず呪術師やシャーマンがいて、夢や幻覚の中で魂を超自然的な世界に飛ばし、精霊に薬草の在り処や処方の仕方を教えてもらい、また病人を癒すために病人に憑依している悪霊と戦いました。こうして夢の中で精霊や神々と交流する中で、彼らは世界の仕組みや成り立ちを学び、自然社会における自分たちの立ち位置や振舞い方を理解し、その神話的世界の秩序に則って生きていました。彼らにとって夢は、自分たちはどこから来てなぜ存在しているのか、といった実存的な問いをも含む世界の全てを説明してくれ、自分たちを世界に繋ぎとめてくれる重要な知識源であったのです。このようにして夢などから彼らが理解した知識をまとめたものが神話と呼ばれています。

## (2) 原始社会の通過儀礼と夢

眠りはまた疑似的な死であり、死者の世界と繋がっているとも考えられていました。部族によってそれぞれ違いはありますが多くの原始社会では、青年が成人式の通過儀礼(人生の節目を通過する際に行われる儀礼)として、疑似的な死の体験として抜歯や刺青や数日間の断食など恐怖と身体的苦痛を味わった後、村から隔離された非日常的な場所、多くは山や洞窟などに籠り孤独に眠りに入ります。こうして恐怖・苦痛・孤独・眠りといった死を疑似的に体験することで大人としての忍耐や覚悟を試された後、眠りから目覚めて新たに大人としてのアイデンティティ(人格)を持って生まれ変わるので。その時に見た夢は大事に持ち帰り、夢の解釈が施され、その後の人生の大切な指針とされました。またその際に夢に登場した動物は、自分の守護霊として一生涯を通して自分を守ってくれると信じられているそうです。

### このコーナーに関する展示資料

- 145.2/1/ 『夢と人間社会 上 叢書・ユニベルシタス』(ロジェ・カイヨワ編 G. E. フォン・グリュエネバウム編 法政大学出版局 1978)
- 145.2/1/ 『夢と人間社会 下 叢書・ユニベルシタス 89』(ロジェ・カイヨワ編 G. E. フォン・グリュエネバウム編 法政大学出版局 1985)
- 145.2/ド/ 『夢の秘法 セノイの夢理論とユートピア』(ウィリアム・ドムホフ著 奥出直人訳 岩波書店 1991)
- 146.1/1/ 『夢と神話の世界 通過儀礼の深層心理学的解明』(J・ヘンダーソン著 河合隼雄訳 新泉社 1974)
- 161/E46/ 『神話と夢想と秘儀』(ミルチャ・エリアーデ著 岡三郎訳 国文社 1972)
- 162/1/ 『夢と幻視の宗教史 上巻 宗教史学論叢 17』(河東仁編 リトン 2012)
- 163/マ/ 『バロマ トロブリアンド諸島の呪術と死霊信仰 ニュー・フォークロア双書』(マリノウスキー著 高橋渉訳 未来社 1981)
- 164.04/1/ 『夢の神話学』(井本英一著 法政大学出版局 1997)
- 浦和 386/G34/ 『通過儀礼 Kobundo renaissance』(アルノルト・ファン・ヘネップ著 綾部恒雄訳 弘文堂 1995)
- 浦和 389/Ty4/ 『原始文化 神話・哲学・宗教・言語・芸能・風習に関する研究』(E. B. タイラー著 比屋根安定訳 誠信書房 1962)
- 浦和 389/タ/ 『文化人類学入門 太陽選書』(E. B. タイラー著 大社淑子〔ほか〕訳 太陽社 1973)
- 浦和 389/ミ/ 『未開社会における構造と機能』(ラドクリフ＝ブラウン著 青柳まちこ訳 新泉社 1981)

### コラム

非常に驚くことを「たまげる」と言いますが、もとは「魂消る」という言葉だったそうです。昔は、眠っているところを急に驚かされると、魂が上手く肉体に戻れなくなって死んでしまうと考えられていました。このことから魂が消えるほどに驚くことを「魂消る」と言うようになったそうです。

### (3) 古代国家における夢

文明が発達し、国家が成立し始めた時代になっても、夢の中で神々からの助言を求める夢籠り (incubation) という儀式は、世の東西を問わず世界各地で実践されていました。特に2～3世紀のエジプト・ギリシャ・ローマでは治癒の神アスクレピオスの崇拝が大流行し、ギリシャでは300以上もの寺院で巡礼者たちが夢籠りを行っていました。その際には断食や裸で身を清め、供物や油や香料を捧げた後、寺院などの聖所に籠って、神に「どうか望む夢を授け給え」と恍惚的な祈りを捧げて眠りに就いたそうです。日本では、かの聖徳太子が夢籠りをしたとも考えられている夢殿という名前の建物が法隆寺に残されています。

資料展示ではこの夢殿に祀られている夢殿観音も展示しています  
♪また法隆寺夢殿には、夢違観音 (ゆめたがえかんのん) という仏像も祀られています。

この観音様の台座には『悪夢を転じて吉夢とする』と刻銘が入れられており、昔から宮中の女官の信仰を集めていました。

#### 聖徳太子と夢殿

日本では聖徳太子が法隆寺の夢殿に籠り夢託を求めた話が『聖徳太子伝暦』『上宮聖徳太子伝補闕記』に伝えられています。聖徳太子の飼犬が、二度もある鹿の脛を食い折ろうとした現象を奇妙に思った太子は、その訳を知ろうと夢殿に籠りました。すると夢に美しい像が現れて「かつてこの鹿は嫡妻であり、犬は妾であった。ある時この嫡妻が妾の子の四肢を折ったので今その怨みを晴らしたのだ。」と告げたそうです。聖徳太子の信仰した仏教における輪廻転生や因縁といった教えと民間信仰である夢託が合わさった興味深い話ですね。

特に古代国家の支配者やそれに準ずる地位のある人が、身を清めて一定の儀式を経て見た夢は夢託として、公的に重要で政治的な意味を持ちました。例えば日本書紀の「崇神紀」には、崇神天皇が二人の子供のどちらを後継者にするか悩んだ挙句、皇子たちによる夢託で後継者を決めた事があったようです。夢は神仏の意思を伺うための大切なコミュニケーション手段だったのです。

#### このコーナーに関する展示資料

- 081.6/加/9 『河合隼雄著作集 第9巻 仏教と夢』(河合隼雄著 東京 岩波書店 1994)  
140.8/4/3 『夢 時空を超える旅路 イメージの博物誌 3』(デーヴィッド・コクスヘッド著 スーザン・ヒラー著 平凡社 1977)  
146.1/チ/ 『中国の夢判断』(劉文英著 湯浅邦弘訳 東方書店 1997)  
145/A38/ 『夢は人に何を伝えているのか 夢の心理学』(秋山さと子著 ベストセラーズ 1993)  
145.2/ミ/ 『明恵 夢を生きる』(河合隼雄/著 京都 京都松柏社 1987)  
145.2/ユ/ 『夢の王国 夢解釈の四千年』(M・ポングラチュ他著 種村季弘他訳 河出書房新書 1987)  
145.2/ユ/ 『夢判断の書 叢書アレクサンドリア図書館 第2巻』(アルテミドロス著 城江良和訳 国文社 1994)  
162.2/チ 『中国古代人の夢と死』(吉川忠夫 平凡社 1985)  
230.4/エト/ 『絵解き\*ヨーロッパ中世の夢(イマジネール)』(ジャック・ル・ゴフ著 橋明美訳 原書房 2007)  
230.4/エト/ 『中世の夢』(J・ルゴフ著 池上俊一訳 名古屋大学出版会 1992)  
雑誌『夢の技法 <imago Vol.6 (5)>』(青土社 1995, 5)

## 2 芸術作品にまつわる夢 ～古典文学にみる日本の夢信仰～

### (1) 盗まれた夢

資料展示では、夢にまつわる様々な文学・音楽・美術を紹介しています。今回のライブラリーではこの中から、日本の古典文学から垣間見える夢信仰の世界をご案内します。皆さんは、「良い夢を見たら、他人に話してはいけない」という話を聞いたことはありませんか？日本では昔から全国的に、吉夢を見たらそれが現実になるまで他人に話さず自分の中に留めておくという俗信がありました。それは、夢を話すとせっかくの吉夢を他人に横取りされてしまうと考えられていたからです。

鎌倉時代初期の説話集『宇治拾遺物語』にはこんな話があります。

その昔、備中国の郡司の息子だった吉備真備は、夢占いをさせようと思い、夢解きの女のもとに行ったところ、その国の国守の息子がおいでになりました。国守の息子が夢を夢解き女に聞かせると、女は「ほんとうにすばらしい夢です。きっと大臣にまで出世なさるはずです。決して決して人にお話なさるな」と申したので、国守の息子は喜んで、着物を脱いで女に与えて帰って行きました。

その様子をこっそり覗いていた吉備真備は、「この君の御夢を自分に取りらせてください。国守は四年過ぎると都に帰ってしまう。私はこの国の者だからいつまでもここにいるのだから私をこそ大切に思うがよかろう。」と言うと、女は「おっしゃる通りにいたします。それでは、さっきおいでになった君のようにしてお入りになり、その語られた夢を少しも違わず話して下さい」と言いました。吉備真備は喜んで、国守の息子と同じように入って、同じように夢語りをすると、女も同じように答えました。吉備真備は嬉しく思って、着物を脱いで与えて立ち去りました。

その後、吉備真備は書物を習い勉強をすると、みるみる上達し、唐へも派遣され、帰国後は大臣にまでなったのでした。一方、本来大臣になるはずだった国守の息子は、鳴かず飛ばずの一生を送ったそうです。

—吉田敦彦「神意と夢」(『夢の技法 imago Vol. 6 (5)』所収)を参考・引用—

この他にも、例えば『曾我物語』には北条政子が妹の夢を買い取って將軍夫人の座を手に入れた話があり、夢は売り買いの対象としても考えられていたようです。また凶夢を見てしまった場合には陰陽師によって夢を取り換えてもらう「夢祭り」という儀式が存在したり、自分の代わりに徳の高い僧侶に吉夢を見てもらう代行業があったなど、昔の日本では夢に対してとても柔軟に対処していたようです。

### (2) 夢の解釈の重要性

他人に気軽に夢を話してはいけないとされる理由はもう一つありました。それは、どんな吉夢を見たとしても、その夢の解釈次第で凶夢となってしまうという俗信があったからでした。例えば、「西大寺と東大寺とを跨いで立った」(『宇治拾遺物語』)という夢や、「朱雀門の前で左右の足を東と西の大宮通までふんばり宮城を抱きかかえて立っている」(『大鏡』)という夢を見た摂政や関白になるはずだった男が、どちらの話でも、そばにいた女房に話したところ、「股が引き裂かれて痛そうですね」と解釈されてしまったばかりに、地位を逃した上に数々の不幸に見舞われた話があります。

#### クイズ

古来、夢虫と呼ばれていた昆虫がいました。

それは何でしょう？ —答えは、蝶です。

蛹から離脱して、ひらひらと宙を舞う蝶は、夢を見た時や死ぬ時に肉体から離脱した魂のようだと考えられていました。自分が蝶の夢を見ているのか自分が蝶のしている夢なのか、一体どちらが夢なのか現実なのか分からなくなった荘子の「胡蝶の夢」でも蝶が登場しますよね。この他にも世界各地の民話や伝承の中で靈魂の化身とされた生物には、蚊やトンボ、蜂や鳥などがいます。

このような信仰は、実は日本だけでなく古くから世界中に見られるものです。そのために、古来より職業的な夢解者がいて、夢の解釈を担っていたのでした。ユダヤ教には「解釈されない夢は読まれない手紙のようである」、「夢はそれを解く者の口に從う」という諺まであるくらいです。しかし中にはこの諺を利用して金払いの良い依頼人には吉夢に解釈し、貧乏人や吝嗇家の依頼を凶夢に解釈した狡賢い占い師もいたようです。こういった悪事を防ぐために、アラビアでは意図的に誤った夢解釈をする者には重い刑罰が科せられていたといえます。

### (3) 凶夢を吉夢に変える方法

夢の内容よりも解釈の方がより強い力を持っていたということで、古代中国の『春秋左氏伝』には解釈の力によって悪夢を吉夢に変えた話があります。晋の文公は、楚の軍勢に勝てるか危ぶんでいたところ、こんな縁起の悪い夢を見てしまいました。文公が楚の成王と取っ組み合いをして、相手方が文公の上に押し掛かり、文公の脳味噌を吸っているというものです。目が覚めて居ても立ってもいられず、文公は靈感ある家系の血を引く臣下にこの夢を話しました。すると気の利く臣下は、「それは吉夢です。こちらは上を向いているから天を得ることになり、相手は下を向いているので罪に伏した形だからです。」と答えました。さらに当時は脳味噌は物を柔らかくすると信じられていたので、脳味噌を吸った相手方は軟弱になってしまっただろうと解釈して、臨機応変に主君を励ましたのです。結果はこの解釈の通り、文公は楚に勝利し、周王に拝謁して策命を賜ったのでした。夢の解釈もここまでくると、もはや一種の自己暗示のようなものであることが分かります。昔の人々は、フロイトが無意識を発見するずっと前から、思い込みや自己暗示の持つ力に直感的に気付いていたのかもしれない。

## このコーナーに関する展示資料

### 文学

#### ◆中世日本文学

浦和シ145/F93/『夢 日本人の精神史 Yu<sup>^</sup>shindo<sup>^</sup> so<sup>^</sup>sho』(古川哲史 緒 有信堂 1967)

162.1/ニ/『日本の夢信仰 宗教学からみた日本精神史』(河東仁著 玉川大学出版部 2002)

210.1/ニ/『日本中世における夢概念の系譜と継承』(カラム・ハリール著 雄山閣出版 1990)

210.4/ユ/『夢語り・夢解きの中世 朝日選書 683』(酒井美紀著 朝日新聞社 2001)

BM702/ナ『奈良の寺5 夢殿観音と百済観音』(久野健著 辻本米三郎著 岩波書店 1973)

浦和シ910.2/Sa18/『古代人と夢 平凡社選書 13』(西郷信綱著 平凡社 1972)

#### ◆近・現代文学

久喜911.56/ヨ/『夢十夜 詩集』(芳沢鶴彦著 林道舎 1991)

BM913/ア/『新・夢十夜』(芦原すなお著 実業之日本社 1999)

BM913/ナ/『漱石文学全集 第10巻 小品・短篇・紀行』(夏目漱石著 集英社 1983)

#### ◆日本や世界中の夢にまつわる著作を集めた本

146.1/一『楽叢書・夢について』(栗津潔編 駈々堂出版 1982)

久喜908/ヨ/『書物の王国 2 夢』(『書物の王国』編集委員会編 国書刊行会 1998)

久喜908/Sh21/『渋沢竜彦コレクション 1 夢のかたち』(渋沢龍彦著 河出書房新社 1984)

BM913/キ/『恐怖小説コレクション 3 夢』(新芸術社 1989)

久喜914.6/ニ/『日本の名随筆 14 夢』(作品社 1984)

久喜964/ホ/『夢の本』(J.L.ポルヘス 堀内研二訳 国書刊行会 1992)

## 音楽

### 「悪魔のトリル」(ジュゼッペ・タルティーニ作曲)

…悪魔に魂を売って書きたいわくつきの曲！？…

イタリアの作曲家ジュゼッペ・タルティーニ(1692-1770)が21歳の時に作曲した魅惑的なヴァイオリンソナタ。ある日、悪魔に魂を売った夢を見たタルティーニは、悪魔にいと甘美なヴァイオリンを聴かされます。

その時に聴いたメロディーを目が覚めて急いで採譜しました。タルティーニはこの曲について「私の作品の中でもっとも優れたものではあるが、夢の中で聞いたあの曲に比べれば、どの位劣っているかわかりません。」と語っています。

(B145.2/エ/『夢の世界(岩波文庫)』(ハヴロック・エリス著 藤島昌平訳 岩波書店 1986) p334)

### 「夢」(クロード・ドビュッシー作曲)

…ドビュッシーの夢…

ドビュッシー(1862-1918)の「夢」は1890年頃に作曲された初期のピアノ曲です。

まるで濃霧の森を彷徨っているような、もしくは水面を漂っているような感覚になる不思議で美しい曲です。

### 「夢のあとで」(ガブリエル・フォーレ作曲)

…夢のあとで…

イタリアのトスカナ地方に古くから伝わる詩にフォーレ(1845-1924)がメロディーを付けたもの。

詩の内容は、夢の中で出会った一人の美しい女性に恋をし、彼女と一緒に地上を離れて天空を巡るという神秘体験をするのですが、その後、目が覚めて現実に一人残されていることに気付いた男は、「あの人を返して…」と暗黒の夜空に向かって叫びます。

…その他にも夢にまつわる音楽はたくさんあります…

リストによる繊細な「愛の夢」、シェイクスピア原作の『真夏の夜の夢』に曲を付けたメンデルスゾーン「真夏の夜の夢」、ビュータン作曲の「夢」など、夢にまつわる音楽は数多くあります。

いろんな「夢」を聴き比べて、お気に入りの「夢」を探してみるのも楽しいですね。

※今回紹介した曲については、様々な演奏者による複数の所蔵がありますので、請求記号は付記していません。気になる曲がございましたらカウンターの職員までお問い合わせ下さい。

## 美術

今回の展示では夢にちなんでシュールレアリスムの絵画を紹介しています。シュールレアリスムとは、次の章でご紹介するフロイトの無意識の思想に影響されて、意識の介在しない無意識の領域にこそ、ありのままの真実や本質が隠されているのだとして、20世紀前半頃に起こった芸術です。シュールレアリスムとはフランス語で「現実を超えた」という意味です。その名の通り、現実を超えた世界、すなわち夢や無意識の世界を描こうとしました。

145.2/ユ/『夢・眠り 夜明かしする人悩む人、夢見る人は眠る人 自然読本』(河出書房新社 1984)

BM720//『世界美術全集 19 Chagall』(向井潤吉〔ほか〕編 東郷青児監修 山田書院 1971)

浦和S723/林/『ポール・デルヴォー展 夢をめぐる旅』(ポール・デルヴォー〔画〕 プレーンラスト編 「ポール・デルヴォー展—夢をめぐる旅—」実行委員会 c2012)

雑誌『Imago = イマーゴ 1991年11月臨時増刊号』(青土社 1991年11月臨時増刊号)

### 3 フロイトの夢分析

#### (1) 夢分析の誕生

さて、近代になると脱呪術化と政教分離が進み、夢は政治的な影響力を失いました。また啓蒙主義によって、かつてのように夢を信じる人々も少なくなりました。その代わりに、夢のようなナンセンスなものにも必ず合理的な理由や機能があるはずだという近代合理主義精神の下で、特に精神医学の分野で徐々に研究対象として認識されるようになりました。

そうした精神科医の一人であったジークムント・フロイト(1856 - 1939)は、催眠術を用いながら手探りで精神疾患の治療をするうちに、意識の下に幼少期のトラウマを保存している領域(無意識)があることに気付きはじめます。そしてフロイトは自身の父の死に際してある奇妙な夢を見たことで、その夢の分析によって無意識の存在を確信しました。そして夢は無意識に溜まった欲動(リビドー)の現れの間であることを発見します。こうして著わされたのが『夢判断』(1900)で、この時の考えを素に精神分析学の体系を作り上げていったのです。

#### (2) 夢分析の仕組み

抑圧され無意識に溜まったリビドーは解放を求めて意識上に浮上しようとするのですが、理性がそれを強く抑圧するので、行き場を失ったリビドーが代替行為として夢や強迫神経症<sup>1</sup>といった症状として外に現れようとするのです。精神疾患の治療に有効だったのが、夢を分析することでした。フロイトによると、夢には願望を充足する役割があり、普段は理性によって意識上に昇ることが許されず、抑圧されているリビドーは、理性の支配が弱まる夢の中で、その緊張を解放しようとするのです。しかし、やはり直接的な表現では心理的抵抗が大きいので、夢の中では対象を象徴するものに置き換えるなどオブラートに包んで表現されます。こうして夢の中で部分的に願望を満足させることで精神バランスの安定を得ていると言えます。

このようにして夢の検閲が仕掛ける象徴(シンボル)を読み解いて、自身の本心であるリビドーを理解し意識上に解放することで神経症患者の症状が治まったため、彼は夢分析による治療を進めました。しかし、人々はフロイトのその考えに露骨な反発と嫌悪感を表わしました。それはフロイトがリビドーをほほ性的欲望と同一視し、その夢解釈を常に幼児期の性的トラウマと結び付けたからです。しかし一つフロイトを弁護するとすれば、当時19世紀ウィーンは、理性と道徳倫理によって人類史上かつてないほど性への抑圧が強かった時代でした。従って当時の精神疾患の原因としては、事実、性の抑圧から来るものが多かったようです。確かにフロイトの理論は粗削りな部分はありますが、フロイトの著作や精神分析手法から伝わってくるのは、彼が、人類の自己欺瞞を嫌い、ごまかしや都合の良い幻想に逃げずに人間の醜い現実を直視しようとした、強くて正直で誠実な人だったということです。エディプス・コンプレックスという人類の暗黙のタブーに挑み、異端者扱いされながらも決して屈しなかったフロイトがいたからこそ今日の精神分析があります。

#### リビドーとは・・・

人間の生命エネルギーや太古的な本能・欲望・願望などの心的エネルギーのこと。フロイトの場合リビドーは、ほほ性的欲動と同義の意味として使っていました。

#### エディプス・コンプレックスとは

フロイトが父の死に際して見た夢とはこのようなものでした。

年若い紳士と連れ立って駅にいる。老人は盲人であり(目の手術を受けた父を象徴している)、その老人にフロイトは尿瓶を差し、老人はそこで用を足す、というものでした。

フロイトはこの夢を分析して、父の役に立つ有能な子供だと認められて父の愛情を得たいという願望と、同時に、母の愛を巡るライバルである父を奪いたいという父への敵意があることを認めました。異性の親を手に入れたいという願望と同性の親に対する敵意、これがかの有名なエディプス・コンプレックスです。

<sup>1</sup>自分でも不合理と分かっているにもかかわらずやめることのできない行為を繰り返してしまうこと。手洗いがやめられない等。

## このコーナーに関する展示資料

- 145.9/7/『フロイト イラスト版 For beginnersシリーズ』（リチャード・アップグナネッセイ文 オスカー・サーラティイラスト 現代書館 1980）
- B145.9/7/『フロイト 講談社学術文庫 860』（小此木啓吾〔著〕 講談社 1989）
- 145.9/7/『フロイト 無意識の扉開く 「知の再発見」双書 24』（ピエール・ババン著 小林修訳 創元社 1992）
- 146.1/7/『フロイトの生涯』（アーネスト・ジョーンズ〔著〕 ライオネル・トリリング編 紀伊国屋書店 1980）
- 146.13/せ/『〈図説〉フロイト 精神の考古学者』（鈴木晶著 河出書房新社 1998）
- 146.13/併/『父親殺害 フロイト原罪の系譜 メンタルヘルス・ライブラリー 31』（柴田明彦著 批評社 2012）
- 146.13/加/『フロイトを読む 年代順に紐解くフロイト著作』（ジャンーミシェル・キノドス著 福本修監訳 岩崎学術出版社 2013）
- 146.13/加/『フロイト思想のキーワード 講談社現代新書 1585』（小此木啓吾著 講談社 2002）
- 146.13/加/『フロイト全集 4 夢解釈』（フロイト〔著〕 新宮一成〔ほか〕編 岩波書店 2007）
- 146.13/加/『フロイト全集 5 夢解釈』（フロイト〔著〕 新宮一成編 岩波書店 2011）
- 146.13/加/『フロイト全集 9 グラディーヴァ論・精神分析について』（フロイト著 新宮一成ほか編 岩波書店 2007）
- B146.13/ユメ/『夢と夢解釈 講談社学術文庫 1497』（ジークムント・フロイト著 金森誠也訳 講談社 2001）
- 146.1/ユメ/『夢の世界 図説・聖なる言葉・叢書』（デイヴィッド・フォンタナ著 鏡リュウジ訳 河出書房新社 1997）

## 4 ユングの夢分析

### (1) イマジネーションの夢分析

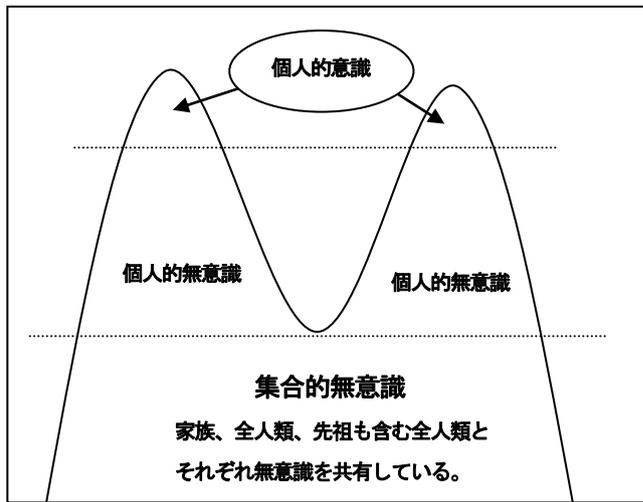
さて、フロイトが夢を無意識のリビドーの抑圧によって生じた病的なものと理解したことに對して、その一番弟子であったユングは夢をポジティブな意味を持つものとして捉え直しました。

ユングはリビドーを性に限らず、もっと広いもの、人間の生命力と創造力の源として捉え、このリビドーが神話・宗教・芸術という形で表現されると考えました。それに伴い、夢の解釈においても、フロイトが厳格な性への還元主義的立場を取ったことに對して、ユングは想像力を羽ばたかせて神話的次元から夢の象徴やイメージを解釈することでより豊かで実存的な意味が得られると考えました。

例えば剣を持った勇者がドアを開けるために鍵穴に鍵を入れる夢を見たとします。フロイトならこれを一面的に性的な意味で解釈しましたが、ユングに言わせれば、この夢は「困難な現実に立ち向かい勇者のように戦い抜くことで、自分の新たな可能性が開ける、あるいは人生の新たなステージが開ける」という無意識からのメッセージなのだと考えた方が、解釈される人の人生をより豊かなものにするのではないかと考えたのです。

### (2) 集合的無意識について

ユングがリビドーをこのように考えるきっかけとなったのは、ある患者の夢分析に登場したシンボルが、愛好家しか知り得ないような古代の宗教的シンボルと一致していたからでした。そういうことが何度か起こり、ユングは集合的無意識という概念を想定するに至りました。ユングは人間の意識を氷山の一角として、そのすぐ下には個人的無意識があり、もっと深部に下るに従って、家族、血族、全人類、先祖も含めた全人類とそれぞれ無意識の層を共有していると考えていました。（右上図参照）



親しい人や可愛がっていたペットが亡くなる時に虫の知らせがあった、先祖が夢枕に立ったという話を耳にすることがありますが、それは集合的無意識を通してコンタクトを取っているのかもしれない。

(※このような話については、次章で紹介している「夢の知らせ虫の知らせ」、「現代民話考 4 夢の知らせ・火の玉・ぬけ出した魂」に多数掲載されています。)

過去も含めた全人類で無意識を共有しているとすれば、かつての原始社会の人々の夢や神話に繰り返し現れる典型的な人物像やテーマは決して現在の私たちと無関係ではありません。昔から語り継がれた神話や伝承、また古今東西様々な人の夢に繰り返し登場する象徴(典型的な人物像やテーマ)は、全人類が共有する集合的無意識から発生した心的エネルギーの象徴化されたもので、ユングはこれを元型と呼びました。ユングはこの人類の課題を上手く自分のものとして消化・統合することで、円満な完成した人格になることができると考えました。

フロイトの、辛く厳しい現実を直視しようとした夢分析に対して、それを補うかのようにロマンに溢れた想像力豊かな夢分析を発展させたユング。その後もフロイトの弟子達は、各々の人生観や価値観を反映させつつ、フロイトやユングの理論に修正・調整を加えて独自の理論を展開させました。ピンスワンガーやメダルト・ポスに代表される現存在分析学派、フレデリック・パールズによるゲシュタルトセラピーなどが有名で、それぞれ特徴的な夢分析が行われています。

### このコーナーに関する展示資料

#### ユング関連

- 145.1/ニ/『人間と象徴 無意識の世界 上巻』(カール・G. ユング〔ほか〕著 河合隼雄監訳 河出書房新社 1975)
- 145.1/ニ/『人間と象徴 無意識の世界 下巻』(カール・G. ユング〔ほか〕著 河合隼雄監訳 河出書房新社 1975)
- 145.9/1『ユング そのイメージとことば』(アリエラ・ヤッフェ編 氏原寛訳 誠心書房 1995)
- 146/079/『ユング イラスト版オリジナル For beginners シリーズ 65』(大住誠文 田島董美絵 現代書館 1993)
- 146/St5『ユング その生涯と心理学』(A・スティーブンズ著 佐山董子訳 新曜社 1993)
- 146.1/ハ/『変容の象徴 精神分裂病の前駆症状』(C. G. ユング著 野村美紀子訳 筑摩書房 1985)
- 146.1/ニ/『夢と象徴の深層』(馬場謙一〔ほか〕編 有斐閣 1984)
- D146.15/カ/『赤の書』(C. G. ユング著 ソヌ・シャムダサーニ編 創元社 2010)
- 146.15/ケ/『元型論』(C・G・ユング著 林道義訳 紀伊国屋書店 1999)
- 146.15/コト/1『子どもの夢 1 ユング・コレクション 8』(C. G. ユング著 李敏子他訳 人文書院 1992)
- 146.15/コト/2『子どもの夢 2 ユング・コレクション 9』(C. G. ユング著 皆藤章〔ほか〕訳 京都 人文書院 1992)
- 146.15/メ/『夢分析 1 ユング・コレクション 13』(C・G・ユング著 入江良平訳 人文書院 2001)

- 146.15/ユメ/『夢分析 2 ユング・コレクション 14』(G・G・ユング著 入江良平他訳 人文書院 2002)  
146.15/ユン『ユング 講談社選書メチエ 206』(山中康裕編 講談社 2001)

#### ゲシュタルト療法関連

- 146.8/材/『記憶のゴミ箱 パールズによるパールズのゲシュタルトセラピー』(フレデリック・S. パールズ著 原田成志訳 新曜社 2009)  
146.8/ケ/『ゲシュタルト療法パーベイティム』(F. S. パールズ著 倉戸ヨシヤ監訳 ナカニシヤ出版 2009)  
149/P42『ゲシュタルト療法 その理論と実際』(F. S. パールズ著 倉戸ヨシヤ監訳 ナカニシヤ出版 1990)

## 5 夢の入門書・参考書・エッセイ・その他

最後に、夢や夢分析に興味を持った方のために、入門書や参考書をご紹介します。夢のエッセイ集や、ちょっと気になる他人の夢日記、人が死ぬ瞬間に見る夢を集めた著作、虫の知らせや予知夢といった少し不思議な体験を聞き集めた著作なども紹介しています。

それでは、今宵も皆さまに素敵な夢が訪れますように。

### このコーナーに関する展示資料

#### 夢の入門書・参考書

- 145.2/タ/『夢分析入門』(鐘幹八郎著 創元社 1976)  
145.2/ユ/『夢を知るための109冊』(東山紘久〔ほか〕編 創元社 1992)  
145.2/ユメ/『夢を知るための116冊』(東山紘久編 杉野要人編 創元社 2006)  
145.2/ユメ/『夢と眠りの博物誌』(立木鷹志著 青弓社 2012)

#### 夢のエッセイその他

- BM90//『夢について』(吉本ばなな著 幻冬舎 1994)  
BM90//『夢の知らせ虫の知らせ』(今井美沙子著 筑摩書房 1995)  
145.2/ユ/『夢と死 死の間隙に見る夢の分析』(M. -L. フォン・フランツ著 氏原寛訳 人文書院 1987)  
浦和388.1/ゲ/『現代民話考 4 夢の知らせ・火の玉・ぬけ出した魂』(松谷みよ子著 立風書房 1986)

#### 夢日記

- 145.2/チ/『チューリヒ夢日記』(秋山さと子著 筑摩書房 1985)  
145.2/ユ/『夢蔵 Super dream collection』(久住昌之著 情報センター出版局 1995)  
145.2/ユメ/『夢の場所・夢の建築 原記憶のフィールドワーク』(吉武泰水著 工作舎 1997)  
146.8/オ/『女坂』(東山紘久著 ミネルヴァ書房 1994)  
BM147//『巨大霊能者の秘密 スウェデンボルグの夢日記 生命の正体を探るもう一つの科学シリーズ』(E. スウェデンボルグ著 今村光一訳・解説 叢文社 1982)  
289/マ/『夢日記 世界ノンフィクション 186』(正木ひろし著 大陸書房 1974)



※このリストに掲載されている県立図書館資料は、展示期間中は貸出できません。  
予約・複写は可能ですので職員にお問い合わせ下さい。なお、雑誌のバックナンバーなど一部貸出できない資料もあります。  
●この他にも県立図書館では夢に関する資料を多数所蔵しています。お探しの資料がございましたら、お気軽に職員までお問い合わせ下さい。